体育授業研究の研究紀要の特徴について
―1998年以降の国立大学附属小学校の研究紀要から―

鈴木一成　　森　勇示
名古屋市立柳小学校　　愛知教育大学

About the characteristic of the physical education study bulletins
―From the bulletins of the elementary school attached to the national university after 1998 ―

Kazunari Suzuki, Yuji Mori
Nagoya municipal Yanagi elementary school, Aichi University of Education

キーワード：体育授業，研究紀要，国立大学附属小学校
Key words：The Physical Education Study，Bulletins，Attached Elementary School

1. 問題と目的

多くの学校で体育の授業研究が行われている。とりわけ，大学の附属学校は研究校として，ほぼ毎年研究会を開催している。附属学校は研究の拠点校として地域の教育推進へ期待があり[1]，研究のまとめとしての研究紀要が刊行される。

これまでに体育の授業研究はその表記に対して客観性や実証性の批判があった[2) 3)]。その批判から実証的な授業の分析法・評価法[4) 5) 6) 7) 8) 9)]が開発され，1980年代以降，一定の発展を遂げた[10)]。

このような立場とは別に学校の研究は，「教師間のコラボレーション」の場であると[11)]，学校ならではの独自性や教師の個性を追求できるものとしてその意義を提起しているという考え方もある[12) 13) 14)]。あわせて研究報告には実践記録としての存在価値があるという考え方もある[15) 16) 17)]。

研究が地域の教育推進を担うには，研究紀要が地域の教師に読まれる必要がある。その紀要の内容にはどのような特徴があるのだろうか。これが本稿の主題である。

研究の内容は画一化への懸念がある。1990年代には，いわゆる「めあて学習」が各校を席巻したと考えられる[18)]。行政からの資料も刊行され[19)]，「めあて学習」の学習過程モデルは全国的に広まったと推察される。そのため学習指導案の形式に同じようなスタイルが目立ったり[20)]，研究内容が似通ったりした状況も生じた[21)]。

では，2000年代に入り，いわゆる「生きる力」[22)]の影響はどうか。本稿では体育の授業研究のまとめとして刊行された研究紀要に着目する。中でも，いわゆる「生きる力」が登場した1998年以降の国立大学附属小学校で実施した体育の授業研究について，研究紀要（以下，「紀要」と表す）に表記された内容を読み，その特徴を明らかにしたい。以上が本稿の目的である。

2. 方法

対象は1998年から2009年までの国内複数地域における国立大学附属小学校の紀要とした。できるだけ広範囲と考えたが，入手可能な数は，42偏（15校）であった。これらは，関東，東海，関西，中国四国の4地域に及ぶ。

表1　対象

	編	校
関東	16	7
東海	13	4
関西	6	2
中国四国	7	2
合計	42	15

分析は以下の2つのアプローチで行う。

①紀要を読み，項目ごとにまとめた一覧表を作成し，これを概観する。その中で繰り返し出現する語句に注目し，特徴を検討する。

②紀要に記された内容を3つのコードで抽出し，量的に比較する。3つのコードとは一般的な授業の構成要素[23]である「学習内容」「教師」「学習者」を参考にし，それぞれ「教材の工夫」「教授方略」「学習への取組」とした。その理由は，分析対象が研究として構成された方略的な営みだと考えたことによる。すなわち「学習内容」は単なる内容ではなく，研究として構成され，何らかの工夫された教材になると考えられる。そのためこれを「教材の工夫」とした。また，「教師」は研究的な企図をもった取組をしていると考え，これを「教授方略」とした。さらに，「学習者」は一般的な子どもの描写ではなく研究的に組織された学習に取り組む状況を表すものと考え，これを「学習への取組」とした。

なお，ここでこの3つのコードは①の内容とも関連するものである。そのため，①の一覧表の項目にこの3つのコードを含めることとした。ただ，紀要には概ね「研究テーマ趣旨」「実践内容と成果」が共通に記されている。したがって，この2つと3つのコードを合わせ一覧表は5つの項目で表すこととした。

また，分析の対象はテキスト化されている質的データである。そのため，項目やコードで区分する作業は筆者（教職経験11年）と現職教師（教職経験19年）の2人で行った。分類に際して不一致のケースは協議して一致させた。ただし，文脈的に考え明確な分類ができない場合[注1)]はコードに重複させて含めた。

3. 結果と考察

3.1. 項目ごとの分類

表2，表3，表4，表5のように，項目ごとに分類した一覧表を作成した。

表2　関東における国立大学附属小学校の研究紀要一覧

No.	研究テーマと趣旨	実践内容と成果	教材の工夫	教授方略	学習への取組
1	ともに挑戦し，運動する楽しさを深め合える子の育成。(1998年度)	「かかわる力」の育成に焦点，ボール運動 (バスケットボール；4年)	3on31件 (合計１件)	チーム編成1件等（合計13件）	作戦の立案等 (合計2件)
2	総合活動と体育科の重点―総合活動が教育活動の核に位置づいていった時の体育科の重点― (1998年度)	総合学習を核としたときの体育科の重点をすべき内容の提示。運動する楽しさとかかわりがうまれる支援の必要性を言及。	記述なし	ボール運動の選択制1件等 (合計9件)	ルールについて等 (合計6件)
3	運動する楽しさや喜びを体感していく学習づくり。(1999年度)	互いを高め合うポートボールの学習の紹介，単元構成とめあて達成の場の設定，かかわりがうまれる支援の必要性を言及。	記述なし	チーム編成1件。パス練習を紹介する支援4件等 (合計10件)	学習の見通しをもつ1件。学習カードの活用4件等。 (合計15件)
4	自分の中での学び・友達との学び合いを大切にした体育科学習。 (2000年度)	教育課程づくり，場の工夫。基本の運動(器械・器具を使っての運動遊び；1年)，学習カードの記述等。	教材「もりであそぼう」1件。 (合計1件)	友達との関わりを仕組む1件等。 (合計3件)	好きな場所で遊ぶ1件。 (合計3件)
5	子どもがつくりあげる体育学習。(2001年度)	「子どもがつくりあげる」「共にかかわり」がキーワード，仲間とかかわって新しい動きをつくり出す姿が見られた。	とびっこ遊び17件等 (合計26件)	自由に用具を使わせる2件等。 (合計10件)	自由に用具を使う1件等。 (合計22件)

№	研究テーマと趣旨	実践内容と成果	教材の工夫	教授方略	学習への取組
6	豊かな学力の育成―教科再編を志向して― (2002年度)	運動にかかわる問題から体育科の目標を設定，全領域。教科の再編。	各学年年間指導計画例示6件 (合計6件)	記述なし	記述なし
7	学び・学び合う体育科学習～学びを実感する体育科学習のあり方～1年次。 (2003年度)	「こころ・あたま・からだ」がキーワード。学習カードやノートの活用で，学びの変容を可視的に捉える。	記述なし	記述なし	学習カードへの記6件，ノートの活用2件 (合計6件)
8	学びの場をひらく―子どもォ主体的な学びを支える教師の関わり―2年次。(2003年度)	選択制を取り入れている。教師は「いろいろな運動の楽しさ・喜び」を味わわせるための時間と空間の提供としている。	記述なし	選択をさせる3件 C (合計3件)	記述なし
9	学び・学び合う体育科学習～学びを実感する体育科学習のあり方～2年次。(2004年度)	仲間づくりを目標とした単元配列。1枚のポートフォリオの活用	記述なし	即時的・肯定的フィードバック1件 (合計1件)	めあての設定2件。ノートの活用3件。 (合計6件)
10	夢…未来を拓く子どもたち―自分づくりマネージメントができる子どもたちの育成1／2年次― (2005年度)	学年ごとの子どもの発達段階を考慮している。合科，道徳との関連の中で，体育の授業が組み込まれている。	記述なし	記述なし	ジョギングしている人に速く走る方法を聞く1件。 (合計2件)
11	運動に対する意欲を高め，体力の向上を図る指導の工夫。 (2005年度)	新体力テストの結果から，低・中・高学年の指導の重点を設定。体力テストの結果の向上が成果，できる楽しさに重点	バトンを通したロープを張った場1件 (合計1件)	ティームティーチングによる投げる指導4件等 (合計6件)	学習の振り返り7件 (合計7件)
12	夢…未来を拓く子どもたち―自分づくりマネージメントができる子どもたちの育成2/2年次― (2006年度)	活動する力（一人ひとり）とチーム力（集団として）の二つの力を高める作戦。チーム力の意識の向上。	記述なし	ポートフォリオの活用2件。 (合計3件)	学習カードへの記述3件 (合計3件)
13	主体性を育む幼・小・中連携の教育～幼・小・中の接続期に着目して～ (2007年度)	小3と小6の交流。中1と小3との交流。体ほぐしの運動 (3年，6年，中1)	チャンレンジ運動4件 (合計4件)	記述なし	記述なし
14	自己の生き方を見つめ，豊かに生きる子の育成。(2007年度)	弾力的な学習過程，課題の設定の仕方自分たちに合った練習を進めることができた，教師の支援が課題。	記述なし	振り返りカードの提示1件。 (合計3件)	自分の課題にあった練習の場を選択1件等 (合計5件)
15	求める動きに挑戦していく (2007年度)	「分かる」「見つける」「挑戦する」の3つの視点で,「求める動きに挑戦していく」ことに迫っている。	いろいろなハードル1件等	教材教具。場の設定7件等 (合計24件)	感想を述べる1件。日記を書く1件等 (合計6件)
16	スポーツの可能性を追究する子の育成。 (2007年度)	グループ編成，教材や教具の適用，課題の明確化，プレイタイムの設定，観察対象グループの設定，	いろとび走3件川わたり1件等。 (合計12件)	グループ学習7件等 (合計22件)	問いに対する答え3件等 (合計37件)

表３　東海における国立大学附属小学校の研究紀要一覧

№.	研究テーマと趣旨	実践内容と成果	教材の工夫	教授方略	学習への取組
17	成長と学びを支える教育課程をめざして，一年次（2000年度）	低学年・中学年・高学年の段階で単元学習の進め方を示した。	記述なし	学習の見通しを「見通しカード」に書かせる1件等（合計３件）	見通しカードに記述1件。友達からのアドバイスをもらう1件等（合計4件）。
18	成長と学びを支える教育課程をめざして，二年次（2001年度）	学習指導過程の工夫，関連的な指導	大波小波，郵便屋さん，1件等(合計6件)	いろいろな跳び方を見せる1件等（合計2件）	めあてを変えて取り組んだ1件。友達と声を掛け合う2件。（合計3件）
19	成長と学びを支える教育課程をめざして，最終年次（2002年度）	低学年・中学年・高学年に分け，弾力的な年間指導計画の作成，	記述なし	見通しカードの活用させた3件等（合計10件）	「資料集」を参考にしながら，見通しに沿って練習を行った4件等。（合計10件）
20	教科力を発揮することができる子どもの育成，一年次（2003年度）	教科で育てたい力を教科力として，はじめの運動の設定：発問，子どもが見つけた動きのポイント11件掲載。	はじめの運動等（合計4件）	発問2件。教師が子どもを転がす（補助）1件等（合計6件）	教師や友達に転がしてもらうと転がれる1件。互いに声を掛け合う1件等（合計16件）
21	教科力を発揮することができる子どもの育成，二年次（2004年度）	はじめの運動の取り上げ方の工夫；基本型・作戦工夫型・課題達成型。。	はじめの運動等（合計3件）	発問2件。学習カードの記述２件等（合計7件）	はじめの運動」の後，話し合った1件。発問について意見を出した1件等（合計19件）
22	教科力を発揮することができる子どもの育成，最終年次（2005年度）	はじめの運動の取り上げ方の工夫；発達段階の特徴，	はじめの運動等（合計3件）	発問3件。助言3件。（合計6件）	楽しそうに取り組んだ2件。はじめの運動の後，発問について意見1件等（合計15件）
23	仲間とともに自らの動きを創り出す子の育成（2005年度）	状況に応じた動きの追求が軸。仲間とのかかわりについて。	記述なし	図で理解させる1件。動きの提示1件等（合計6件）	示範を見る1件。発表する1件。ワンプレーごとに振り返る4件等。（合計6件）
24	「未来をたくましく生き抜くことができる子」を育成する教科指，一年次（2006年度）	とらえる力を発揮させるための工夫と見通して解決する力を発揮するための学習の進め方の例示。	はじめの運動等（合計2件）	発問2件。学習資料（絵図）の提示2件，学習カードへ記述させた2件等（合計9件）	目標の設定，課題の選択，活動の決定を行った2件。学習カードへの記述2件，等，（合計10件）
25	「未来をたくましく生き抜くことができる子」を育成する教科指導，二年次（2007年度）	高める段階で，動きの視点と段階的な評価で示す。；子どもの発言を件掲載	はじめの運動等8件（合計8件）	学習習カードへの記述によるできたことと分かったことの関連させた8件等（合計26件）	目標の設定，課題の選択，活動の決定を行った8件。友達と評価をし合った11件。（合計45件）
26	「未来をたくましく生き抜くことができる子」を育成する教科指導の確立，最終年次（2008年度）	学習の進め方を明確にする学習資料の提示と教師の働きかけが記述されている，	はじめの運動等7件（合計7件）	発問8件。支援4件等（合計21件）	目標と課題，活動を決定した6件。活動を決定した1件等。（合計27件）
27	自分にとって効果的な動き方を明らかにする（2008年度）	教材化，場や用具・ルールの工夫，教師と子どもやりとりが掲載。	当たると回転する的4件等,（合計17件）	抽出児への問い掛け10件（合計10件）	活動で思ったことや様子13件（合計13件）
28	運動することのよさに気づき，進んで体を動かそうとする子どもをはぐぐむ体育科（2008年度）	互いにアドバイスをし合うこと。学習カードに「見てほしいこと」への記述。	記述なし	ＶＴＲを見せて，課題点を見付けさせる1件。（合計1件）	学習カードへの記述1件。アドバイスし合う8件。「ドンマイ・ナイス」などの声を掛ける1件（合計9件）
29	「自分の考えをしっかりともつことができる子」の育成を目指した教科指導，一年次（2009年度）	もとの運動の設定：動きの基礎感覚つくる運動。戦術的な動きの基礎的な理解を促す運動。体力を高める運動。	もとの運動（なわとびトライアル，跳び箱サーキット等（合計5件）	発問8件，意見を板書4件。声掛け2件。振り返らせた2件。何度も繰り返させた1件等。（合計24件）	発問について考え，発表した4件。出された意見を意識して運動した4件。自分が試したい動きを決めて，取り組んだ１件等（合計31件）

表４　関西における国立大学附属小学校の研究紀要一覧

No.	研究テーマと趣旨	実践内容と成果	教材の工夫	教授方略	学習への取組
30	ゲーム：「ラインポートボール」の授業研究－「プレーヤー」「オフィシャル」「サポーター」が一体となる授業を求めて (1998年度)	学習過程，授業分析・評価の方法；ＶＴＲに収録。愛好的態度測定は体育学研究の成果を採択。技能測定は単元前後のジグザグドリブルのタイム並びに20秒間の連続壁パス数の男女別，学級全体の平均値及び標準偏差を採択。ゲーム内容の変化を検討	ラインポートボールの開発上の視点16件等。 (合計4件)	トーナメントのゲームを設定した1件。共有課題の設定，ルールの提示8件。学習過程28件。 (合計33件)	振りかえりカードを記述した1件。学習過程28件 (合計29件)
31	ボール運動：バスケットボール（第5学年）の授業研究―「3オン3」の教材化を求めて―	全校テーマ「人間として生きぬく力」(一年次）の研究成果を受け，5年生バスケットボール教材の有効性を検討。学習過程，授業分析・評価の方法；態度測定は体育学研究の成果を採択。	センターライン付近にテイクオーバーゾ-ンの設置1件等 (合計40件)	オリエンテーションの設定1件。つかむ段階で「3オン3をしよう」という多義的な共有課題の設定1件等 (合計42件)	振り返しカードに記述した1件。学習過程28件。 (合計29件)
32	ゲーム：「ラグポートボール」の授業研究-小学校中学年のゲーム領域における過度的ゲーム教材を求めて。 (2000年度)	テーマにある「人間として生きぬく力」(一年次）の研究成果を受け，6年生バスケットボール教材の有効性を検討学習過程，授業分析･評価の方法；技能的側面・情意的側面・認知的側面から検討。技能的側面は攻撃完了率等から検討	ラグポートボールの開発上の視点38件等 (合計49件)	ルールの提示1件。共有課題の設定3件。学習過程38件。 (合計41件)	学習過程38件。 (合計36件)
33	学習指導の最適化に関する授業研究―3年：基本の運動を（マット運動）を題材としてー (2004年度)	学習形態の構成。情意面は体育授業診断法を実施し，愛好的態度の測定。技能面はＶＴＲ収録し，評価基準表をもとに分析。「よい授業のための到達度調査」を実施し，量的な分析。。	前転ファミリー4件，後転ファミリー3件 (合計10件)	学習課題の設定9件。発見のポイント21件。 (合計30件)	めあてをもつ8件。めあてに関わる活動17件。 (合計25件)
34	確かな学力を伸ばす，学習指導の創造 (2004年度)	４つのキーワード「学ぼうとする力」「感覚･感性」「思考力･判断力」「表現力･実践力」「知識・技能」を構造的にとらえる。	記述なし	走りたくなる場の設定1件，音楽を流す1件等 (合計12件)	学習カードの記述2件。 (合計2件)
35	触発され，結びつく体育科学習。 (2009年度)	触発し合う場での，表現，交流，共有，共感によって，共に運動の成り立ちをつかむことを方法として，体験や経験，操作的活動や試行錯誤を重視している。	記述なし	おもしろかったこと，夢中になったことを振り返らせる1件等。 (合計6件)	応援やアドバイス3件。役割分担や作戦を考える3件等 (合計15件)

表5　中国・四国における国立大学附属小学校の研究紀要一覧

№	研究テーマと趣旨	実践内容と成果	教材の工夫	教授方略	学習への取組
36	共に学び，共に生きる授業の創造～子どもの「分かる過程」に焦点をあてて～(1999年度) 図っている。	既習の体験，自他の動きの対比する観る活動で，動きの構造的特性に気づかせる。また，相互干渉により，問いを深め，学習環境を主体的に深めさせていくこと。	的当てゲーム1件。腕立て後ろ振り降り1件。 (合計2件)	発問1件。 (合計1件)	作戦を立てる1件。作文を書く2件。学習を選択する1件。発問について考える1件。 (合計5件)
37	友だちから学ぶ体育学習 (2000年度)	テーマに「共に学び，共に生きる教育課程の創造」を受け，体育の授業からとらえ直し，協同的問題解決学習を展開。	記述なし	教師の言葉掛け6件。チーム編成2件。副読本を活用させる1件。 (合計9件)	仲間への言葉掛け7件。副読本を活用する1件。 (合計6件)
38	自分のめあて達成に向け，自他の動きの比較をもとに友だちに働きかけながら精一杯運動に取り組み，運動の爽快感を味わう子 (2001年度)	テーマ「共に学び，共に生きる教育課程の創造」を受け，総合的な学習のあり方を受け，体育の授業から捉え直している。「体ほぐしの運動」の考え方を取り入れた授業の展開。	二人でシーソージャンプ1件，短なわの種類7件 (合計6件)	オリエンテーションの設定2件。グループ編成2件。課題の掲示1件。体ほぐしの運動例を提示する1件。 (合計5件)	評価し合う4件。学習カードへの記述1件。アドバイスをする3件。体ほぐしの運動例から選択する1件等。 (合計10件)
39	子どもが運動の楽しさや喜びを自ら味わおうとする授業を創る (2003年度)	テーマ「学ぶ心を育み，確かな学力を身につける魅力ある授業づくり」を受け，児童理解に基づく，評価と指導・支援の一体化を体育の授業として捉え直している。	記述なし	単元指導計画の立案1件。学習カードを活用させる1件。支援をする2件。 (合計4件)	学習カードの記述3件。教え合い2件。 (合計5件)
40	友だちのかかわりを通して互いに高め合う授業づくり。 (2004年度)	テーマ「豊かな学びを育む魅力ある授業づくり」を受け，体育の授業から捉え直している。友だちとかかわるポイントの明確化，学習課題の明確化。	記述なし	単元計画を立てた4件。称賛1件。空気量を減らしたボールの使用1件。声を出させる1件等 (合計6件)	声を出す1件。発表をする1件。振りかえりカードの記述2件。 (合計4件)
41	友だちとかかわりともに伸びる体育学習 (2005年度)	少人数による活動兄弟班での観合い伝え合い，体ほぐし的な運動，記録の提示,めあての焦点化。	記述なし	8チームをつくる1件。ルールを増やす11件等 (合計13件)	チームでの教え合い6件，チームで観合う等 (合計14件)
42	学ぶ意欲を育み，実践的な行動力を培う保健体育科の学習 (2006年度)	自分や仲間の体や心の状態に気づくようにするために，学習カードを活用する。かかわり合いをねらうために，仲間意識をもちながらレベルアップした運動に取り組ませる。	力強さアップコース1件，柔らかさアップコース1件等。 (合計3件)	学習カードに書かせる8件。 (合計6件)	学習カードの記述8件。教え合い2件。めあてをもつ2件。(合計12件)

「研究テーマと趣旨」の特徴には，全校テーマとの関連が保たれていて，その全校テーマは多岐にわたっている。これは全校テーマが，学校の教育活動という総体の中で存在感を示し，研究がその影響下におかれているものと考えられる。また，附属学校の研究が地域の教育推進への期待に応えるために，学習指導要領改訂に鑑み，時代を先取りしたテーマになるものが散見される。

「実践内容と成果」の特徴には，教育課程の編成（体育科と他の教育活動との関連も含む）に関すること（№2，4，6，10，17，18，19，37，38）がある。この内容は，学習指導要領改訂を据えてそれらを先導的に具現化しているものと考えられる。また，「運動する楽しさ」（№1，2，3，8，39）や「運動することのよさ」（№28），「自ら学ぶこと」や「自分の考え」（№24，25，26，29）などの内容は，生涯体育・スポーツ理念の影響が示唆される。

一方，「生き抜く」（№24，25，26，31，32）や「共に・学び合い・仲間・友達・かかわり合い高め合う」（№1，2，3，4，5，7，9，12，13，23，35，36，37，38，40，41，42）といった内容は，いわゆる「生きる力」の趣旨を反映しているものと考えられる。

また，「確かな学力・豊かな学力・教科で育てたい力」（№6，20，21，22，30，34，39，40），「できることや動き・動き方について」（№11，15，27）や「学習指導の最適化」（№33）といった内容は次期学習指導要領（2008年）の趣旨を含むものと考えられる。

以上のように「実践内容と成果」の特徴は，学習指導要領の趣旨を反映しているが，全体的な内容は年代として先取りしているものばかりである。

3.2.　件数の比較

研究紀要に記された記述内容は量的に異なる。また，地域ごとに対象数が異なるのでコードで分類した記述件数の比較はχ^2検定を用いた。

表6　コードによる分類

	教材の工夫	教授方略	学習への取組
関東	53	77	78
東海	57	133	193
関西	143	164	138
中国四国	11	47	35
合計	264	421	444

表7　残差分析の結果

	教材の工夫	教授方略	学習への取組
関東	0.791	−0.089	−0.597
東海	−4.835**	−1.276	5.454**
関西	5.603**	−0.244	−4.614**
中国四国	−2.748**	2.758**	−0.348

+p<.10　*p<.05　**p<.01

表6はコードによって分類した記述件数である。χ^2検定の結果有意な差が認められた（2（6）＝ 57.184，p<.01）。残差分析の結果（表7），「教材の工夫」の記述件数が東海と中国四国で有意に少なく，関西では逆に有意に多かった。「教授方略」の記述件数は中国四国で有意に多く，他は差が認められなかった。「学習への取組」の件数は東海は有意に多く関西は有意に少なかった。

東海における事例には，目指す子ども像を設定し，それが体育の授業で出現できたかを成果と考えられているものもある。そのため，「学習への取組」の件数は有意に多くなったと考えられる。

関西における事例には，全校テーマは広義に表され，その結果体育の授業研究の問題設定ととらえ直し，教材の有効性に絞っているものとなっているものがある。またそれは数値化する授業の分析法や評価法を用いている。そのために，授業場面の具体的な「教授方略」や「学習への取組」の記述件数が少なくなり，「教材の工夫」についての言及が多くなったと考えられる。

また，東海や中国四国における事例では，教材の有効性がテーマとなっていないものもあり，そこでは「教材の工夫」の記述件数が有意に少なくなったと考えられる。

中国四国における事例では，「学習環境をどのように設定するのか」「授業の展開はどのように行うのか」「単元構成はどうするのか」といった

授業づくりに関する内容をテーマにしている。そのため,「教授方略」が有意に多くなったと考えられる。

4. まとめ

いわゆる「生きる力」が登場した1998年以降の国立大学附属小学校で実施した体育授業研究について，紀要に表記された内容は次のような特徴がある。

「研究テーマと趣旨」は，全校テーマとの関連が保たれていて，そのテーマは多岐にわたっている。また,「実践内容と成果」の特徴には,「生きる力」や「確かな学力」といった学習指導要領の趣旨を具現化しているものが目立つ。その結果,附属学校の研究は国施の策を先導している可能性がある。それでも，実践アイデアに革新的な内容が含まれるのであれば，それは体育授業を発展させうる。そのことが地域の教育推進の役割を担うものといえよう。

記述件数の多寡では，研究に客観的・実証的分析方法を採用した場合,子どもの「学習への取組」を記述した内容が少なくなる。すなわちそれは,実践記録としての体から遠ざかることにもなる。

学習指導要領改訂の度に，その理念は行政サイドから説明されるが，具体物を示すのが学校の実践である。結果的に本稿の対象となった附属小学校の研究は，その役割を担ったものが多かった。それでも，研究内容はテーマにより多様に変わりうる。その可能性に体育科教育の発展が期待できる。

5. 注及び引用・参考文献

注1）例えば，教師の教授方略はそのまま，子どもの学習を企図してのものであり，教授行為の結果学習活動が生じる。その表記がどちらのものであるか明確でない場合，両者をコードに含めることとした。

1）文部科学省（2009）国立大学附属学校の新たな活用方策等について．国立大学附属学校の新たな活用方策等に関する検討会議

2）西順一（1996）授業研究の意義と問題点．体育科教育（44-11）：14−17.

3）高橋健夫(1989)組織的観察の方法(その1).学校体育（42-7）：121−127。

4）梅野圭史，辻野昭（1980）体育科の授業に対する態度尺度作成の試み-小学校低学年児童について-体育学研究25（2）：139−148.

5）梅野圭史，辻野昭（1982）体育科における学習形態と児童の授業に対する態度との関係-小学校低学年を中心として―体育学研究27(1)：1−15.

6）小林篤（1983）体育の授業分析。大修館書店：210-236.

7）高橋健夫，岡沢祥訓，大友智（1989）体育のALT観察法の有効性に関する検討―小学の体育授業分析を通して―．体育学研究34(1)：31−43.

8）高橋健夫，岡沢祥訓，中井隆司（1989）教師の相互作用行動が児童の学習行動及び授業成果に及ぼす影響について。体育学研究34(3)：191−200.

9）高橋健夫,岡沢祥訓,中井隆司,芳本真（1991）体育授業における教師行動に関する研究―教師行動の構造と児童の授業評価との関係―体育学研究36（4）：193−208.

10）森博文（2002）体育授業研究の成果と課題に関する一考察．体育・スポーツ科学（11兵庫体育・スポーツ科学学会：33−41.

11）木原俊行（2009）授業研究を基礎とした学校づくり．日本教育方法学会編．日本の授業研究（下）授業研究の方法と形態．学文社：127−137.

12）佐々木俊介（1996）いま，授業研究は．体育科教育44（11）：10−13.

13）高久清吉（1989）授業研究の進め方―実践家の利点を生かす研究―．学校体育42（4）144−149.

14）松井貞夫（1982）授業充実のための研究と研修．図説小学校体育科授業の事典．小学館：58−61.

15）小林篤(1989)実践者の立場と研究者の立場.学校体育42（5）：136−141.

16）小林篤（1989）実践記録の書き方．学校体育42（6）：134−139.

17）小林篤（1991）実践記録と授業研究．体育科教育39（7）大修館書店：28−30.
18）佐伯聰夫（1991）「楽しい体育」のこれまでとこれから再考．体育科教育39(4)大修館店：14−17.
19）文部省（1991）小学校体育指導資料指導計画の作成と学習指導.
20）小林篤（1992）体育授業論の露頭．体育科教育巻頭言（40-5）．大修館書店：9.
21）中森孜郎（1995）実践から生まれる問題意識に立った研究を．体育科教育43(3)巻頭言9.
22）文部省（1996）文部広報966号.
23）高島稔（1992）体育授業の構成要素．体育科教育法講義．大修館書店：10−17.